

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年7月24日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0872100995		
法人名	株式会社 トゥルーケア		
事業所名	グループホーム みかん	ユニット名	1丁目
所在地	〒312-0062 茨城県ひたちなか市高場字宮原212-64		
自己評価作成日	平成25年4月1日	評価結果 市町村受理日	平成25年7月22日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0872100995-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成25年5月8日	評価確定日	平成25年7月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>入居者の生活歴や体験したことなどを尊重し、家族の中で生活できるような環境をつくり、あたたかい気持ちを持ちながら接して入居者やその家族にも安心して生活していただけるサービス提供できるよう努めている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所は閑静な振興住宅地に立地し、周りの街並みに調和するような温かみのある建物となっている。</p> <p>管理者の提案により玄関に図書コーナーが設置され、利用者や家族等、職員に読んでもらいたいお薦めの本が並んでおり、貸し出しも可能となっている。</p> <p>職員は家族等とのコミュニケーションと笑顔での挨拶を大切にしており、要介護度の高い利用者も積極的に受け入れ、家族ぐるみで穏やかに過ごせるよう努めている。</p> <p>月2回本部より統括管理者が来訪しており、職員は困りごとなどを相談したり、書類の作成方法の指導を受けている。</p>
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ほのぼのとした雰囲気の中で、笑顔が絶えることなく過ごし、地域の方がふっと寄っていただける地域との関わりを大切にするとその理念を玄関・スタッフルーム・フロア内に掲示し共有するとともに実践に努めている。	「地域との関わりを大切にしていきます」との文言を含んだ、地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を作成し、玄関や事務所に掲示するとともに、職員は申し送り時や月1回の職員会議において再確認し、共有を図っている。 職員は利用者が地域の人々と関わりを持って暮らせるよう実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方のハーモニカ演奏、草刈のボランティアがあったり、散歩時にはお花をいただいたり、幼稚園、小学校、中学校との交流、職場体験等、現在も継続している。	自治会に加入するとともに、利用者や職員は散歩時に近隣住民と日常的に挨拶を交わしながら交流を図っている。 職員は地域の清掃活動に参加しているほか、子ども会の神輿の中継地として事業所を開放し、近隣住民と協力してお茶出しなどの手伝いをしている。 年間を通じて地域住民の訪問を受け入れ、雛祭りにはボランティアによるハーモニカ演奏、七夕には地域の園児による歌やお遊戯、クリスマスには民生委員兼ボランティアによる踊りが披露され、利用者と一緒に楽しく交流している。 中学生の職場体験受け入れに協力するなど、地域の一員としての役割を果たしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学や問い合わせのある時は、認知症について説明し、理解していただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヵ月に1回開催し、その際ホームフロア内において開催し、入居者様の様子を見ていただく等して、ご意見、ご要望を提供していただき、サービスの向上につながるように活かしている。	2ヶ月に1回全利用者や家族等の代表、市職員、自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員などで運営推進会議を開催し、会議録を作成している。 会議では事業所の活動報告や情報交換をしているほか、参加者が協力者となり、事業所のサービスの改善に向けた意見交換をしている。 会議に参加した家族等から自宅で使用していたソファの提供があるなど、運営に対して協力を得ている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の相談員の定期的な訪問があり、事業所の実情、ケアに対する取組みを伝える事ができています。また、分からない事がある時は、担当者に連絡をとり指導や助言をいただいている。	管理者は市担当者に空き状況や事業所の災害用備蓄品の内容を報告するとともに、管理者が交代する際には直接介護保険課に出向いて紹介している。 月2回介護保険課から二人の介護相談員が来訪して利用者や職員の相談を聴いてもらったり、後日相談員から意見をもらうなど、協力関係を築いている。 市の通達文から火災などに対する注意喚起があったり、さまざまな情報を得ており、自らのサービスを見直す機会となっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束とはどういうことなのか、拘束の弊害を知り、理解するとともに話し合いを持ちながら身体拘束しないケアに取り組んでいる。	事業所は玄関の施錠を含め、身体拘束をしないケアを実践している。 身体拘束排除に向けたマニュアルを整備し、「身体拘束をしない介護のための指針」のポスターを掲示している。 管理者は年1回虐待防止と権利擁護についての外部研修を受講している。 職員は3ヶ月に1回の内部研修で認知症の理解を深めるための勉強をしているが、身体拘束について特化した研修を実施するまでには至っていない。	定期的に開催している内部研修で、禁止の対象となる身体拘束の具体的な行為を全職員で再確認することが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が見過ごされることのないよう職員間で言葉を発し研修に参加する等して重要性を理解し防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	契約時及びその都度家族へ説明し必要性があれば事業所と家族で共に考えながら支援する体制をとっている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には文面と口頭により説明を行い入居者や家族等に不安や疑問が残らないよう質問を伺い納得していただけるよう十分な説明をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置の他に、契約時に第三者機関が苦情等の受付窓口になっている事を契約時の重要事項説明書の内容説明時に伝えていません。	運営推進会議には全利用者と複数の家族等が参加しており、様々な意見や要望が出されている。 利用者から「自家菜園で野菜を栽培したい」との希望があり、職員は苗の植え付けを支援している。 家族等から「ユニット間で日常的に交流して欲しい」や「趣味活動にぬり絵を取り入れて欲しい」などの提案や意見を受け、職員で話し合っって運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のホーム長会議、全体会議において事業所の意見、職員の意見や提案を聞く機会を設け反映させている。	管理者は職員がいつでも気軽に提案などができるような雰囲気づくりに努めている。 月1回全体会議を開催し、職員から意見を聞く機会を設けているほか、管理者は職員から出た意見や要望を法人支部で開催するホーム長会議で提案し、運営に反映できるように話し合っている。 これまでは事業所内で休憩時間を過ごす規則になっていたが、職員からの要望を受け、タイムカードに記録を取るにより、外出ができるよう規則を変更している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者・職員の考課により職員個別に評価、面談を実施し、勤務状況や労働時間等に配慮し無理な勤務体制になることなく各自が意欲をもって働けるよう努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部・内部・事業所内において研修の機会を確保し参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市主催による介護相談会に参加し交流、意見交換にてサービス質の向上に取り組んでいる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の段階から本人、家族から情報提供を基に要望など検討し対応を考えている。その事前調査には介護職員が担当と同行し、少しでも顔なじみに近づけられるよう対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の不安に思われている事、施設に望む事など入居の相談を受けた時から細かく聞かせて頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の相談を受けた時から本人の状態に合わせてグループホームの生活が合っているか考えます。事前調査に伺った際にご本人とお会いし、他のサービスが相応しいと判断した場合は関連事業所に相談し、その時必要なサービスが受けられるように努めています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	これまでの経験や特技、現在の能力に応じ自立能力を活かせる環境を作り、入居者職員が共に作業を行うことで「共に支えあっている」との実感、充実感を感じられるよう心がけている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診や外出は、ご家族様と密に連絡をとり、協力を依頼している。面会時には近況報告をしたり、時には電話をしたり要望を伺い共に支援できるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が来所して交流を図ったり親類、馴染みの方が遠方である時は、手紙、電話でのやりとりで関係を継続できるよう支援している。	職員は入居時に利用者や家族等から話を聴き、これまでの生活歴を把握するように努め、馴染みの人との関係が継続できるよう支援している。 利用者は墓参りに行ったり、自宅に宿泊しているほか、以前からの馴染みの床屋や定食屋、家族旅行に出かけるなど、親しい人との交流を図っている。 職員は利用者が家族等や友人に年賀状を出せるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の性格、相性などを考慮してテーブルの配置を工夫している。また、入居者様が孤立しないように職員が入居者様との間に入り支え合えるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	事業所からご家族様に連絡を取る事はありませんが、相談等を受けた際には、状況に合わせた支援をしていきたいと思っております。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居前の事前調査時に生活状況を伺い、生活歴、本人の思い等を把握し、今までの生活を延長していただけるように配慮している。	職員は入居時や介護計画作成時のアセスメントにおいて、利用者や家族等から「利用者が望む暮らし」を聞き、意向にそえるよう支援に活かしている。 利用者の言葉にならない思いなどは、表情や態度から気付いたことを日々の介護記録に記載し、全職員で共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前、入居時に本人、家族からこれまでの生活歴や介護サービスの利用の経過等お話を聞かせて頂き、これからの生活に少しでも活かせる様にしている。	/		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各入居者様の過ごし方や会話、動作など観察、記録し心身の状態を把握している。また記録だけでなく、毎日の申し送りで口頭、ノートを活用して情報を共有することになっている。	/		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の面会時や電話等、本人の言動から本人・家族の希望に添うよう情報交換している。またその情報をもとにカンファレンスで話し合い、介護計画を作成している。	利用者や家族等から聞き取った思いや意向を基に会議を開催し、職員で話し合いながら介護計画を作成するとともに、利用者や家族等に説明して同意を得ている。 日々のケアで介護計画を実践し、モニタリングを記録している。 利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、現状に即した内容に変更しながら支援をしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態、様子を生活記録や日誌に残し、申し送りにて職員間の情報を共有している。日常生活の変化、支援の内容、結果を情報の一つとして介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様やご家族様の状況によって生まれるニーズに対して、職員がご家族様と話し合いをもち意向に添ったサービスの提供ができるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に行事等ボランティアを依頼して催している。また自治会からの地域のイベントの招待や案内もあり活用させていただいている。近隣の幼稚園、小学校の児童たちとの交流を図っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様・ご家族様の希望に応じてかかりつけ医を決めてもらっている。	入居前のかかりつけ医を変更することなく、必要に応じて適切な医療が受けられるよう体制を整えているほか、協力医療機関の医師による月2回の訪問診療や訪問歯科診療を希望することもできる。 全利用者は週1回、事業所が提携している訪問看護事業所の看護師による継続した健康観察を受けている。 利用者が家族等と受診する場合は、医師に日頃の様子を適切に情報提供できるよう、書類等で利用者の状況を報告している。 家族等からは主治医の指示や薬の情報を得ているほか、家族等が受診に付き添えない場合は、職員が通院支援をしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間体制で訪問看護と連携している。週に1度訪問があり、入居者様の健康管理や相談に乗ってもらっている。急変時には主治医と連携し対応している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	個人情報保護法により病院から情報をいただくのは難しく、ご家族様より情報をいただき、又退院時の診療情報提供書、看護サマリーに基づいて、ケアについて話し合いをしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化してきた際にご家族様へ現在の状態や今後のケアについて繰り返し説明を行なうようにしている。職員で今後のケアや医療面で話し合う事が困難な時は、主治医から直接ご家族様に今後について話しをする時もあります。話した内容等は、記録や業務日誌に記載している。	前回の外部評価結果を受け、職員と訪問看護ステーションとで話し合い、看護師指導のもと重度化や終末期の研修を予定していたが、実現するまでには至っていない。重度化や終末期に向けた事業所の指針とマニュアルを整備しているが、終末期に向けて利用者や家族等の意思確認をするまでには至っていない。	提携している訪問看護ステーションの協力を得ながら重度化や終末期対応に関する勉強会を実施し、夜勤時にも対応ができるように取り組むことを期待する。早い段階から利用者や家族等と終末期のあり方について話し合い、意向を確認して同意を得ることが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルがあり確認する事ができる。対応については、心肺蘇生の実技訓練をする等症状に応じて手順の再確認をしており実践力だ身につくよう、今後も定期的の実施していく。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜・夜間想定した避難訓練を毎月実施しており、また月2回の災害用伝言ダイヤルも全職員ができるよう実施しております。訓練時には、地域との協力体制を築けるよう参加を依頼する予定です。	夜間や火災、地震などを想定した避難訓練を毎月実施しているほか、月2回携帯電話を利用した伝言ダイヤルの訓練も行っている。避難訓練の実施記録を作成し、訓練で明らかになった課題の改善策を話し合っているが、訓練目標を明確にしたり、具体的な目標を持って避難訓練を実施するまでには至っていない。近隣住民に挨拶まわりをしながら避難訓練への参加を呼びかけているが、参加を得るまでには至っていない。3日分の飲料水や生活用水、米、レトルト食品、懐中電灯、電池、卓上コンロ、救急用品セット、おむつ等を備蓄している。	避難訓練で明らかになった課題の改善に向け、具体的な訓練目標を掲げて避難訓練を実施することを期待する。災害時における近隣住民との協力体制構築のため、運営推進会議などで避難訓練への参加を呼びかけることが望まれる。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりを尊重し、声掛け等十分に注意を払っている。居室に入る際には声掛け、ノックを行い、プライバシーにも配慮している。	職員は利用者の人権を尊重する対応を心がけ、居室に入る時には必ず声をかけながらノックをしているほか、排泄時などは周囲に気付かれないようさりげなく誘導している。 個人情報に関する書類は、事務所の鍵のかかる書棚に外部から見えないよう保管し、責任ある取扱いと管理をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様自身が日常生活の中で思いや希望が遠慮なく職員に言えるように声掛けを大切にしています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員主導になることのないよう入居者様一人ひとりのペースを大切に日々の心身の状態を把握し、ご本人の思いを理解するとともに希望に添えるよう努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の望む服装、整容ができるよう支援している。2ヵ月に1回の訪問整容にて希望者には対応させていただいている。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者一人ひとりができることで準備、片付けができる支援を行っている。食事に入居者様の意向が反映できるよう栄養士の訪問により聞き取りもあり郷土料理、季節食等で食事を楽しむことができる。	利用者は食事の準備や後片付けなど、できることは役割を持って取り組んでいる。職員は利用者と同じ献立の食事を摂り、会話を交わしながら楽しく食事ができるよう支援している。寿司を注文したり、敬老会には家族等を招待して職員が手作りした赤飯や煮物などで会食をしており、利用者の楽しみとなっている。家族等と外食をする利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量を確認、記憶に残している。摂取量が少ない時は、高カロリー栄養剤にて栄養の確保に努め水分は本人の嗜好を取り入れる等して摂取量の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後の口腔ケアは、入居者様に声かけ、見守り、介助等にて口腔内の清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個人の排泄表に記録し排泄パターンを把握し、排泄の失敗が軽減できるよう、適時誘導、声かけ等によりトイレで排泄していただけるよう対応している。	職員は排泄チェック表を活用して利用者の排泄パターンを把握し、一人ひとりのタイミングを計りながら、トイレでの自立した排泄ができるよう声かけと介助に努めている。職員の適切なトイレ誘導により排泄の自立が促され、失禁者が減ったり、おむつの使用量が軽減している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然に排便できるよう、又、便秘が軽減できるよう排便の確保を行い、状況により腹部マッサージ、水分補給を適度な運動促し、便秘が継続しないよう主治医や訪問看護に相談している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者様の健康状態を見ながら、本人の希望日、時間等、午前・午後いつでも入れる環境を整え入浴を楽しめるよう支援している。	入浴曜日や時間を固定することなく、利用者一人ひとりの状況に応じて少なくとも3日に1回は入浴ができるように支援している。体調に応じてシャワー浴や清拭に変更したり、入浴が苦手な利用者にも、居室で足浴から少しずつお湯に慣れてもらえるよう工夫をしている。季節感を楽しむための工夫として、菖蒲や柚子などを取り入れた入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人ペース、生活習慣を大切にしながら、日中活動ができるよう支援し生活のリズムを整え安眠できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の処方薬の効能、副作用について調べ把握しており、不明なことは主治医、薬剤師に確認している。服薬時は、職員二人にて対応、誤薬や飲み忘れのないようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様にとって望まれること、生活歴から得意そうなことを事前調査や日頃の言動から汲み取りさりげなく作業を実施できるよう声掛けしている。また嗜好確認し余暇活動の提供や物品調達の支援も行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段は 行けないような場所でも、本人の 希望を把握し、家族や地域の人々 と協力しながら出かけられるよう に支援している	時期で季節に合った行事・レクを 行ったり天気の良い日にはドライ ブや散歩に出かけたりしている。 またご家族様の意向や協力を依頼 し散髪や外食等で外出する機会を 持つようにしている。	日常的に中庭で外気浴をしたり近隣を散 歩するほか、車いす使用の利用者には同一 法人の他事業所からリフト車を借りるなど の工夫をしながらドライブに出かけ、活動 的に暮らせるよう支援している。 家族等の協力を得ながら馴染みの定食屋 へ出かけて好きなものを食べたり、散髪が できるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人ひ とりの希望や力に応じて、お金を 所持したり使えるように支援して いる	基本的にお金を入居者様が管理す る事はありませんが、手元にお金 が無い事で不安になられる入居者 様に対しては、ご家族様の了解を 得て所持される場合もあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電 話をしたり、手紙のやり取りがで きるように支援をしている	入居者様から希望があった時には その都度、電話を掛けたり、手紙 が書けるように対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居 間、台所、食堂、浴室、トイレ 等）が、利用者にとって不快や混 乱をまねくような刺激（音、光、 色、広さ、温度など）がないよう に配慮し、生活感や季節感を採り 入れて、居心地よく過ごせるよう な工夫をしている	入居時にできる限り違和感なく生 活できるよう、馴染みの物や家具 など持ち込んでもらっている。フロ アには散歩のときに摘んできた 花や鉢植えを季節に合わせて置く ようにしている。	廊下や居間、台所、食堂は全体が見通せ るように仕切りやドアを設けず明るい空間 となっているほか、利用者が安全に快適な 生活ができるよう採光や室温にも配慮して いる。 廊下や居間の壁面には行事の写真や利用 者が制作したちぎり絵、折り紙作品などが 飾られ、季節感のある楽しい雰囲気となっ ている。 テーブルには庭の草花が飾られ、畳敷き の空間では利用者が洗濯物をたたんだり、 横になって寛ぐことができるように工夫し ている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内のテーブルやイスの配置を考え気の合った入居者様同士の交流に大切にしている。またその人らしく生活できるために余暇活動にも支援をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境が変わることのないよう使い慣れたもの、馴染みのものを持参していただき、安心して生活できるように配慮している。	家族等の協力のもと、利用者は自宅で使い慣れたタンスや籐椅子、化粧品などを持ち込み、これまでと同じような生活ができる居室づくりをしている。 写真や絵、カレンダー、利用者が手作りした折り紙作品などを飾り、居心地よく過ごせるような空間づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様一人ひとりのできることや分かることを把握し見守り、時には一緒に行い、安心、安全に無理なく自立した生活が送れるよう支援している。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームみかん

作成日 平成25年7月18日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	5	身体拘束をしないケアの実践	身体拘束についての勉強会を実施する。	10月2日（水）勉強会開催予定。	3ヶ月
2	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援	重度化や終末期に向けた方針を確認する。	家族会を実施し、重度化や終末期の状態になった時の方針を確認する。	3ヶ月
3	13	災害対策	地域住民を交えての、消防訓練を実施する。	ひたちなか市消防署や地域の方の参加を促し、消防訓練を実施する。（災害対策）	1ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。